



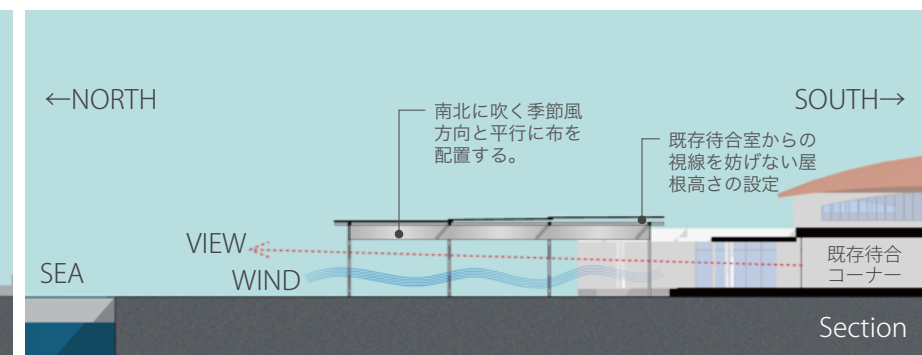
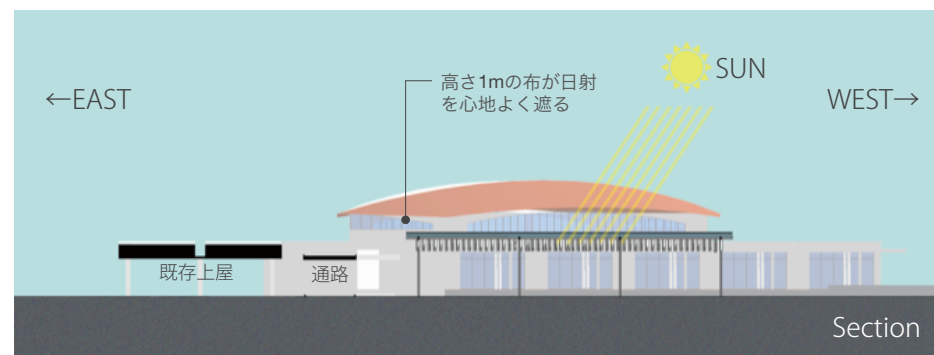
海の家 ~ Sea hut + fabric ~

広い屋根空間に沖縄の青い空と風を心地よく感じられる、海の家のような空間を目指しました。どこにでもあつような材料で作られた海の家のような、気軽さがつくる非日常感、旅先での偶然の出来事のような、楽しさのある場所をつくり、修学旅行生の思い出に残る場所となり、地元の方々の憩いの場にもなる、開かれた居心地のよい場所をつくります。

この自由で制限のないニュートラルな広い屋根は、透明のポリカーボネイト屋根が雨を防ぎ、屋根の広さは風が強い雨天時の天候にも左右されず、仕上げであり装飾でもある“布”で光をコントロールすることができます。

布は風を視覚的に感じることができ、光・風によって美しい影を生み出し、軽く安価で取り扱いが容易です。布を“吊るす”という仕組みは、取替えを容易にし、インスタレーション作品や、お祭りの幟などを吊るすこともできます。動きがあり、場を変化させることができる素材です。

また、布の長さや吊るし方を変化させることによって、天井高さの高いところや低いところなどの変化をつくることもでき、少人数のための居場所や大人数のための居場所など、緩やかな居場所の変化をつくることも可能です。修学旅行がオフシーズンの際は、地域の方々の憩いの場になるような、布の設えにすることができます。



外観イメージ：布が日射をコントロール

●コストに配慮した構造計画

無理のない構造スパンとし、屋根材を軽量化し構造部材に過大な負担を掛けない計画とします。屋根に風抜きスリットを設け風圧を軽減するディテールとします。上部躯体を軽量化し軟弱な地盤でも杭のいらぬ基礎を目指します。

●フラットな床面を生かした空間

風で揺らぐ布によって生まれる光と影が単なるフラットな床面を特別な存在にします。

●バリアフリーに配慮した空間

フォークリフト、車椅子の移動に配慮して段差は最小限に抑えます。

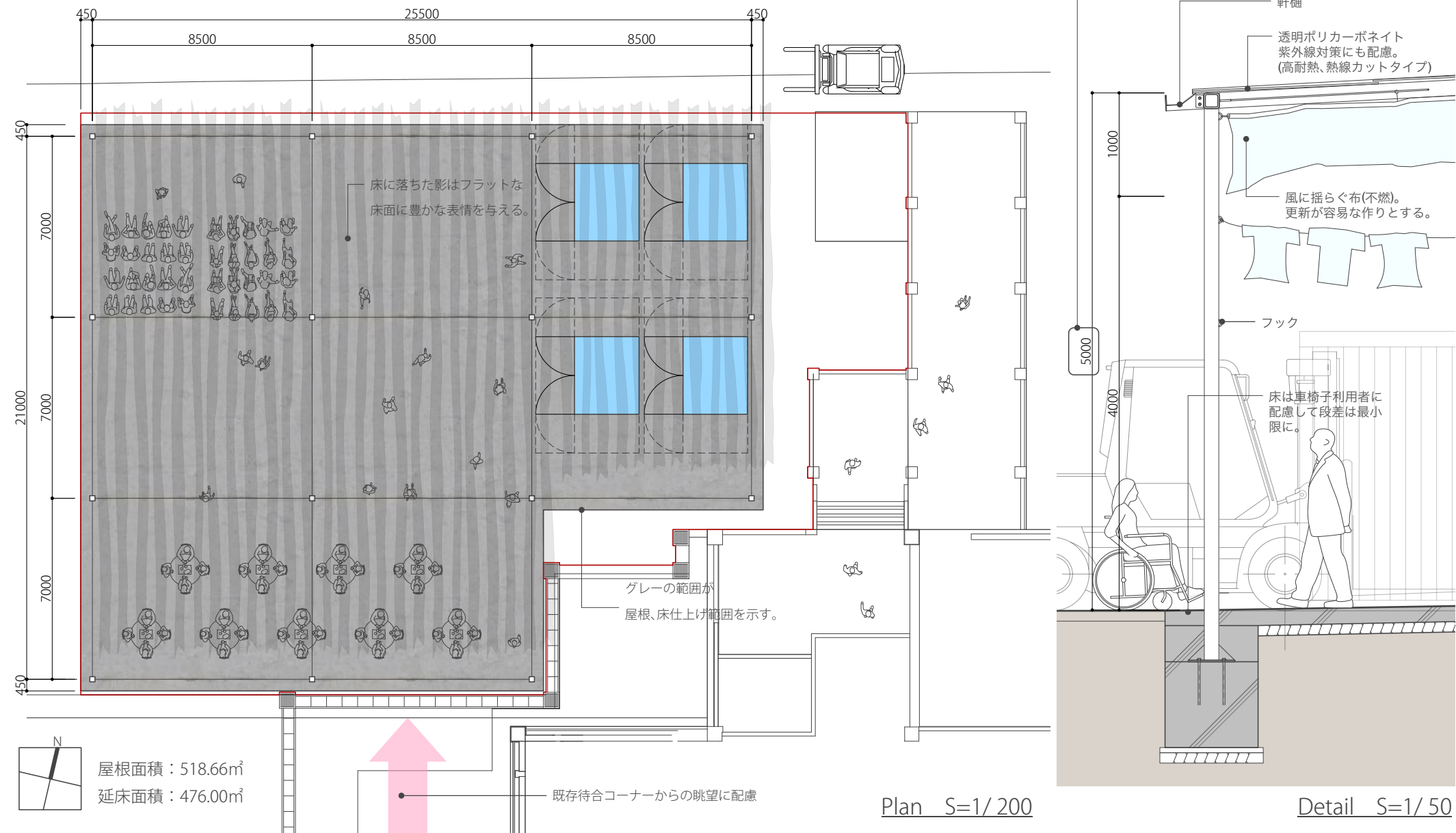
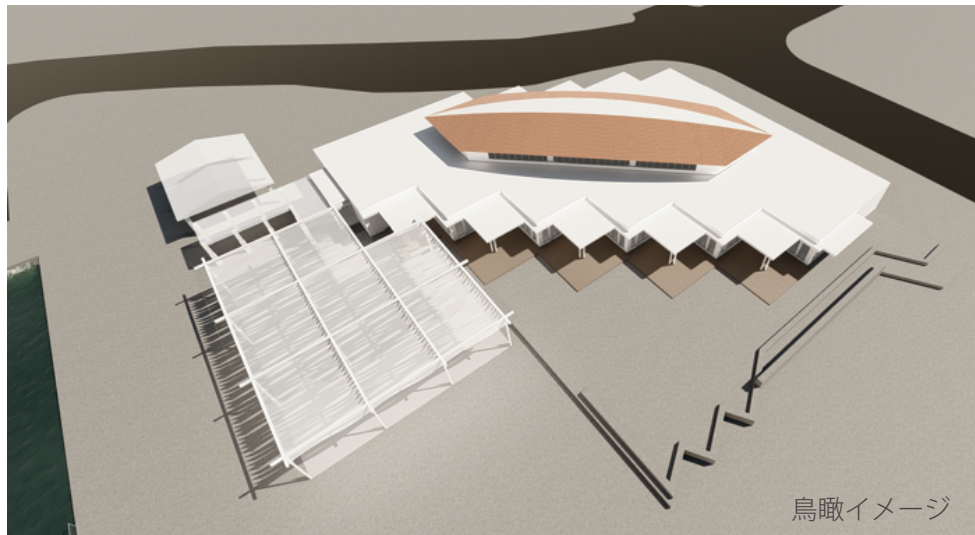
段差の無い空間はイベントで利用しやすい空間です。

●点検作業とライフサイクルコスト

鋼製部材は塩害に強い溶融亜鉛めっきの上下地処理+高耐候性塗装仕上とします。接合部分は塩害の影響を受けにくくメンテナンス性のよいディテールを目指します。またサビ対策として現場溶接をできるだけ行わないように施工性に配慮した計画とします。

●港の景観に配慮

既存ターミナルビルよりもスケールを抑え、建物と色彩の調和を図ります。屋根に透明な素材を使い圧迫感をなくし、揺らぐ布で船の帆を彷彿とさせることで、船や既存ターミナルから見た景観がより良くなるように計画します。



Scene1 ~修学旅行生の待機スペースとして~

記念写真を撮りたくなるような空間

観光客の思い出となるような空間。海と布がつくる風景は、海の家、紙テープ、芭蕉布や草木染めなどの海晒し（うみざらし）を連想させます。

Scene2 ~インスタレーション等の展示会~

アート作品

定期的なアート展等のイベントや県内の布や紙を扱う業種の発表の場（織物展や琉球和紙展など）として利用できます。フラットな床面を活用した展示（漂流物アート等）も行えます。

Scene3 ~地域物産展や地域の憩いの場として~

床も天井も自由に活用

観光シーズン以外は地域物産展などのイベントにも活用出来ます。近隣の住人や釣り人達等のフェリー利用者以外にも気軽に立ち入ることができる地域の憩いの場を目指します。